

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称)大宮駅前ビル新築工事	階数	地上8F、地下1F
建設地	さいたま市大宮区榎本町1丁目296-2, 225, 279, 366-14, 366-15	構造	RC造 一部S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	388 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,120 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年4月4日
敷地面積	620 m ²	作成者	(有)野沢正光建築工房一級建築士事務所
建築面積	353 m ²	確認日	2023年4月4日
延床面積	2,502 m ²	確認者	(有)野沢正光建築工房一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 LCCO ₂ の排出量を可能な限り軽減できるよう、建物が解体・廃棄されず長期間利用が可能となるよう計画した。具体的な計画として、構造躯体を建物の外周部にのみ集約し、室内の中央付近には柱の無い空間を実現することで、事務所テナントの入れ替えや設備機器の更新がしやすい、可変性の高い建物となるよう計画した。		その他
Q1 室内環境 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮した。	Q2 サービス性能 補修必要間隔の長い配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 大宮駅近郊のオフィスビルの計画として、周辺の景観に対する環境配慮を行い、広告や会社名等が無秩序に貼られてしまうガラスカーテンウォールによる外壁の計画を避けた。
LR1 エネルギー 比較的に外皮の多い建物となるため、適材適所に外断熱や充填断熱を十分に施し、また熱橋部分の補強も適切に行うことで、建物の断熱性能の向上に配慮した。電気機械設備、空調機械設備、衛生機械設備において、省エネ性能の高い機器を選定した。	LR2 資源・マテリアル OAFフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをした。	LR3 敷地外環境 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEEさいたま2016年版
仮称)大宮駅前ビル新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.4
Q1 室内環境			0.40		-				2.8
1 音環境		3.0	0.15	-	-				3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-				2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		2.4	0.25	-	-				2.4
3.1 昼光利用		3.6	0.30	-	-				
1 昼光率	2.0% ≤ [昼光率] < 2.5%	4.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-				
1 昼光制御		1.0	1.00	-	-				
3.3 照度		2.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.5	0.25	-	-				3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	規制対象外またはF☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		1.6	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		1.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				2.8
1 機能性		2.5	0.40	-	-				2.5
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-				
1 広さ・収納性	執務室スペース9㎡/人以上	4.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		2.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-				
3 内装計画		1.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部に亜鉛メッキ処理等	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水汚水雑排水の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	グリーン購入法対応などの節水型衛生器具、排水系統区分の細分化等	4.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり			2.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	EPS、ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	EPS、ケーブルラック、配管内配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.86	4.4	0.20	-	-	4.4
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.96	2.2	0.50	-	-	2.2
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	自動水栓、節水こまや節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材：屋根	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO ₂ 排出量低減に配慮	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	